

研究指導を受けるための留学

メイヤー ティファニー（フランス、ストラスブール大学）

2014年10月01日から留学が始まった。研究を第一目標としてお茶ノ水女子大学に入った。修士論文のテーマは「明治時代に文部省が発行し始めた尋常小学修身書における良妻賢母思想」だった。秋の学期には日本語演習や日本事情演習を沢山取って、研究は全然進めなかった。宿題が多かった上で八科目という義務は大学院生にとって厳しかったため履修時間割を軽減する許可をもらった。春の学期には大学院のゼミを四科目取って、研究がやっと進めた。図書館を通ったり、指導教員や先生方に相談したり、文献を沢山集めた。結局、研究方面まで変化してしまって、テーマを「日本女子教育の近代化におけるキリスト教の役割ーフェリスセミナーを事例として」とした。何故かという、最初に考えたことは間違えたからである。そして、先生と話す面白くて新しい研究をする可能性が現れた。

お茶ノ水女子大学のキャンパスは気に入った。所属幼・小中高の学校があって、みどりも沢山、勉強しやすい環境だと思う。図書館も非常に良い場所で、女子教育に関する文献が多い。チューターさんや先生方はサポートしてもらって、新しい経験と出会いができて良かった。お茶ノ水女子大学の学生だったことは誇りに思う。お世話になった。

